

組織間関係モデルによるコミュニティ・ビジネス成功メカニズム研究

1240432 栗山夏芽

指導教員 那須清吾

研究背景

地域の課題全てに行政が介入し解決するには限界があるため、地域住民の積極的な参加が求められている。そこで、市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する「コミュニティ・ビジネス」というものが期待されている。しかし、コミュニティ・ビジネスには、事業の自立や継続、認知度の低さ、人材・資金不足などといった多くの課題が存在する。そこで本研究ではコミュニティ・ビジネスの成功のメカニズムを解明することでどうすれば事業を安定させ継続させることができるのかを明らかにする。

研究目的

コミュニティビジネスにおける組織間関係のメカニズムを解明し成功のメカニズムを解明すると共に、そのメカニズムを解明した上でどうすれば継続させることが可能になるのかを明らかにし、本研究の結果が、コミュニティビジネスを成功させるための1つの模範となることを目指す。

研究方法

本研究は、「先行研究の調査」→「インタビュー調査」→「インタビュー結果の分析」→「独自のモデル（仮説）を作成」→「事例研究による検証」→「考察」の順で進める。

インタビュー調査はうしおえ子ども食堂の運営者である神崎さんを対象に行う。

分析結果

インタビュー調査の分析により、独自の組織間関係モデルを作成した。このモデルにより、各組織が独自の資源を活用して様々な戦略をとることができる中、双方が互いに、独自の資源を活用して自分の課題・目的を達成するだけでなく相手の課題・目的を達成することも可能な戦略をとることにより、安定した組織間関係を成立させることが可能になるということが明らかになった。

考察・結論

双方が互いに、各々が持っている資源を活用して自分の課題・目的を達成するだけでなく相手の課題・目的を達成することも可能な戦略をとることにより安定した組織間関係を成立させることが可能になり、そのような関係が一部の組織間だけでなくコミュニティビジネスの主体組織を軸とした全ての組織間において成立することで、コミュニティビジネスを成功させ継続させることができるということを解明することができた。今後の課題として、本研究では成功事例の分析しか行えていないことから不確実性が残るため、失敗事例の分析をすることにより異なるケースであると成功しないということを実証する必要がある。